

Special Essay

好きなもの・好きなこと

久留米大学医学部消化器病センター
鶴田 修

今私は東京への機中でコンピュータに向かい、締め切りの期限が過ぎて図書館から催促のメールがあったエッセイの執筆を急いで仕上げてしまおうとしている。ちょっとイライラ気味である。考えてみれば会議・研究会への出席、学会発表準備、論文作成などに追われて色々な事がただ通り過ぎるだけのあまり充実感のない日々を送っているような気がする。そして、自分の好きなことが一日中できる環境に憧れる。

自分の好きなもの・好きなこととは何であろうか？ 私は消化器内視鏡が専門であり、内視鏡検査や治療を行っている時は勿論充実しており、イライラした気分にはほとんどならない。しかし、毎日一日中内視鏡検査をするだけで許されるはずもなく、気の乗らない仕事もしなければならない。確かに年齢が進むとともに体力・視力とも低下してきており、内視鏡検査の他にも好きなこと・好きなものを沢山見つけて日々の仕事に取り入れ行った方が良いという気がしてきている。

これまでの自分と図書館との関係を振り返れば、子供の頃から外で遊ぶことが好きで勉強はほとんどせず、医学部に入学してからも野球に熱中し、学生時代に図書館へ行って調べ物などした記憶はない。医者になってからも学会発表や論文作成の時に必要最小限足を運ぶ程度であった。しかし、これからの自分のため色々な情報を収集し、視野を拓げる目的でインターネットを含めた図書館を情報収集源として活用しなければ・・・と思う。とにかく、自分の努力で引き出しの数と中身を増やすことにより、好きなこと・好きなものはいくらでも作り出せるはずである。

はや飛行機は羽田に到着し、浜松町へ向かうモノレールの車中である。やっと催促から逃れることができると少々ホットした気分になっている。とにかく今回の原稿依頼により最近の自分を少しではあるが見つめ直すことができた。図書館に感謝したい。

頑張らねば！！

